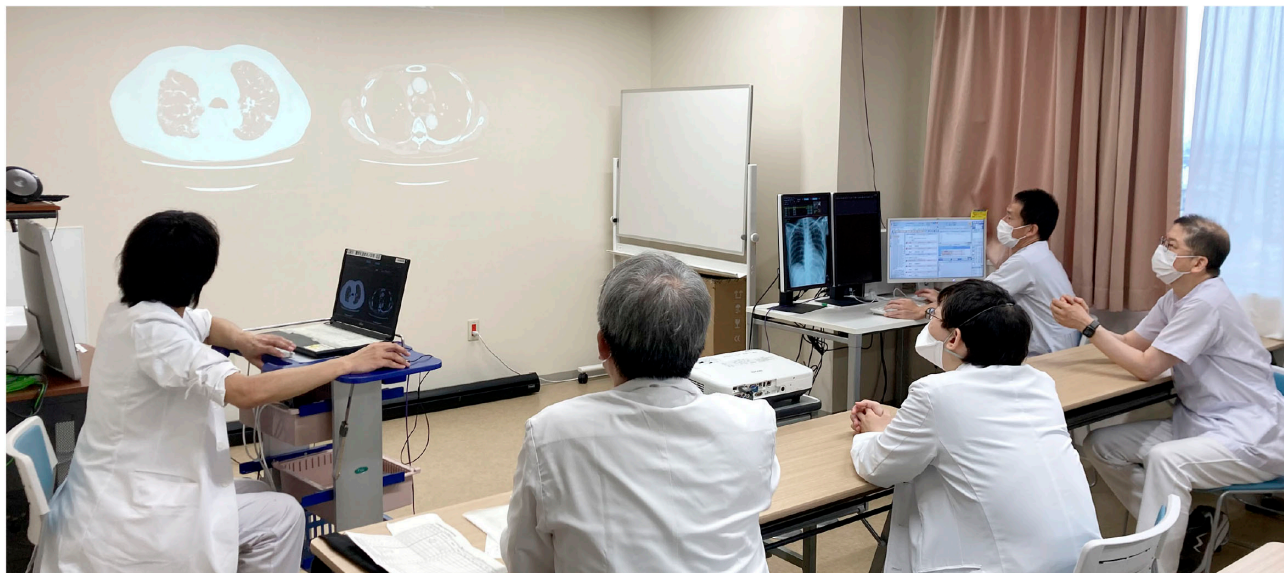


呼吸器・アレルギー疾患内科

研修の特色

当科で研修を受ける専門研修医は、経験豊富な上級医と一緒に患者を担当するか、直接指導を受けることにより、呼吸器病学全般について幅広く、包括的かつ専門的な研修を行うことが可能である。

- ①呼吸器内科診療においては、バランスの取れた全身管理能力や知識が必須である。当院内科には専門分化した9科が備わっているため、内科全9科がお互いにサポートし合うことにより幅広い視点での患者の全身管理が行えるのも特徴である。
- ②当科の後期研修では、十分な症例暴露を通しての実践経験により、総合内科専門医としての能力獲得はもちろんのこと、呼吸器・アレルギーの専門的臨床能力を身につけ、臨床現場に強く、たくましい医師への成長を目標とする。
- ③当科のカバーする幅広い領域、a) 悪性腫瘍に対する化学療法や緩和ケア、b) COPD や喘息などの気道系性疾患、c) 慢性呼吸不全、呼吸リハビリテーション、d) びまん性肺疾患、薬剤性肺障害、e) 集中管理を要するような急性呼吸不全の管理や、人工呼吸管理、肺循環管理、f) 難治感染症、結核を代表とする抗酸菌感染、g) 肺移植前の評価と移植後マネジメント、h) 希少呼吸器疾患、などについては、自信をもって診療できる能力を身に付けることを目標とする。
- ④専門領域において、教科書的知識に留まらない発展的な着眼点や的確なデータ処理技術を習得して、ハイレベルな臨床研究能力を兼ね備えることを目指す。



専攻医からのメッセージ

はじめまして。当院の紹介ページをご覧頂きありがとうございます。私は学生時代より呼吸器内科志望で、初期研修から当院に勤務しています。呼吸器内科は急性期管理も慢性期管理も行う最も内科らしい内科の一つです。疾患の範囲も肺癌や中皮腫といった腫瘍、喘息などのアレルギー性疾患、間質性肺炎を代表とする難病など広範囲なため、抗癌剤、ステロイド、吸入薬、抗菌薬と種々の薬剤が扱えます。気管支鏡検査や胸腔ドレナージなど手技もあり、日々勉強することは多いですが、その分毎日自身の成長を感じることができます。当科では学会発表や論文作成にも力を入れおり、症例報告も含めて年に数回の発表ができると思います。サポート体制も充実しており、毎週行う全体カンファレンス以外にも複数回ショートカンファがあり、判断の悩ましい症例に関しては全体の意見として方針を決めることができるのも特徴の一つです。呼吸器内科志望の方はもちろん、そうでない方も興味をもって頂けたなら、一度、見学に来て下されば幸いです。